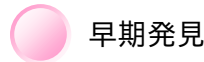


# 内視鏡センター



早期発見



治療

消化管（食道・胃・大腸）のがんのうち、ごく早期の粘膜内にとどまる段階で発見されたがんは、開腹手術や腹腔鏡下手術などの外科的な手術ではなく、内視鏡（胃カメラ・大腸カメラ等）を使って切除できるようになってきました。

早期発見のためには、内視鏡検査等の検診を定期的に行うことが大切です。当院では、大腸検査で腸管を広げるために、人体に安全で生体吸収に優れる炭酸ガス(CO<sub>2</sub>)を使用する「お腹が楽な炭酸ガス全大腸内視鏡検査」や「選べる胃カメラ」を導入する等、内視鏡検査の抵抗感を少しでも和らげる取り組みを行っています。



【お腹が楽な炭酸ガス全大腸内視鏡検査】

本日「胃カメラ検査」を受けられる方へ  
検査方法をお選びください

## ■ 上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）

当院では、「口からの検査／鼻からの検査」どちらも選んで受けていただける体制を整えております。

※「口からの検査」は「鎮静剤あり／なし」の選択も可能です。

内視鏡検査施行数は、がん診療連携拠点病院にも引けを取らない実績です。

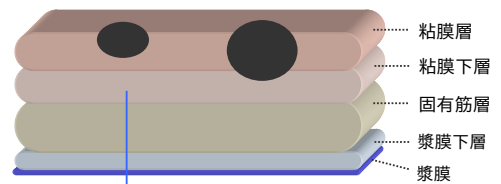
方法	鼻からの検査	口からの検査
使用するカメラ	鼻専用の細いカメラ	通常細径の通常の太さのカメラ
検出するカメラ	メーカー：富士744 製品名：EG-740N 特徴：① 細径 ② 30cm	メーカー：富士744 製品名：EG-790Z 特徴：① 細径 ② 30cm
痛み	少ない	普通
検入時のつらさ	あまり気にならない	気になる
検出ささ	あまり気にならない	気になる
心臓への負担	平常時と変わらない	平常時と比べやや増加
鎮静剤の使用	使用しない	希望に応じて使用
検査時間	約7分	約5分
検査中の会話	できる	できない
検査後の安静	必要なし	鎮静剤を使用した場合は必要、運転中や車の運転は避け
検査	① 吹きかけが少ない検査 ② 検査中会話ができる ③ 空気に優しい検査	① 細径な検査器具 ② 短時間で検査できる ③ 鎮静剤を使用できる
スタッフお勧めの方法	口からの検査で「まよ」という鎮静剤が強く出る方、鎮静剤を使わずに検査を受けたい方にお勧めです。	鎮静剤を使用し、つらさや痛みを和らげながら検査を受けることをお勧めします。とにかく「楽な検査」を希望する方には内視鏡で検査を勧めます。

各診療科での問診の際、ご希望の検査方法を看護師から確認させていただきます。

## ■ 消化管内視鏡手術

### <消化管内視鏡手術>

内視鏡手術とは、粘膜内に留まる早期がんを内視鏡を使って内側から切除するものです。このため、外科的手術のように消化管そのものを切り取ってしまう必要がなく、入院期間や社会生活復帰までの期間が短くすむことが、大きなメリットです。



内視鏡手術の適応になる「粘膜内がん」

### ● ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術

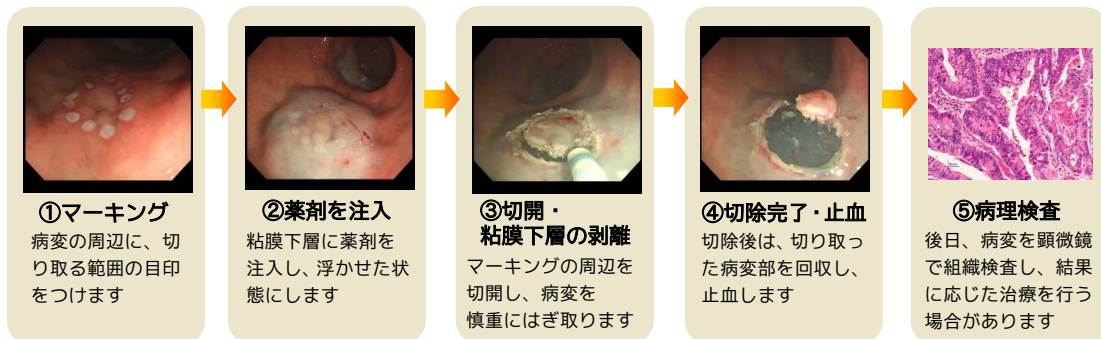
電気メスを使って、胃の表面を切り剥がしていく新しい治療方法です。右記のEMRより、広い範囲の切除が可能です。

### ● EMR：内視鏡的粘膜切除術

がん組織の根元にスネアと呼ばれる金属の輪っかを引っ掛け、高周波電流により焼き切る方法です。

※ESDは、食道の蠕動運動を抑えるため全身麻酔下にて、オペレーションセンターで行う場合があります。その他は内視鏡センターで行います。

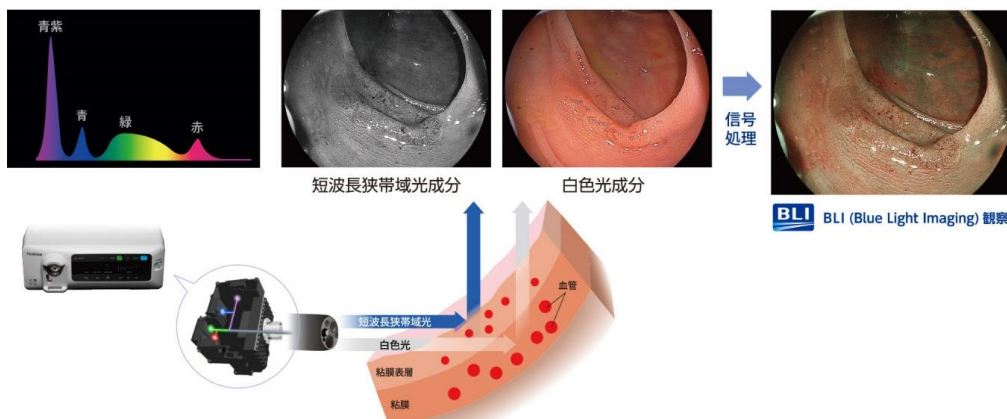
## ● 胃がん ESD の流れ



ESD や EMR の際、切除する病変部を確定するために BLI/LCI を用いています。

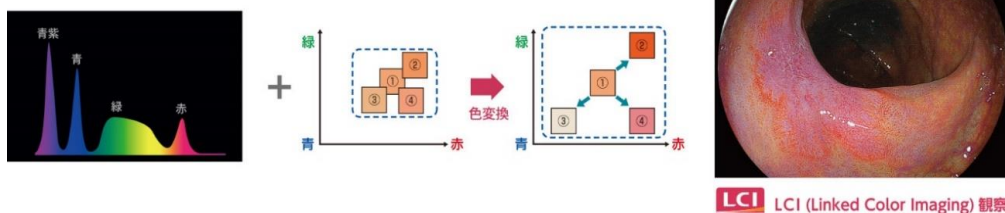
## ■ BLI (Blue Light Imaging) と LCI (Linked Color Imaging)

### <BLI (Blue Light Imaging) >



BLI とは、短波長狭帯域光の照射により得られる高コントラストな信号に対して画像処理を行い、血管や表面構造などの観察に適した画像を表示する機能のことです。

### <LCI (Linked Color Imaging) >



LCI とは、短波長狭帯域光と白色光の成分をバランスよく照射し、その後ソフトウェアにより、赤みを帯びた色はより赤く、白っぽい色はより白くなるように色の拡張・縮小を行い、粘膜の微妙な色の違いを強調する機能のことです。